みんなのとしょかん

市民図書館
TEL（921）4646
FAX（921）4896
http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/

あたらしくはいった本（令和4年2月貸出開始資料から）

●小説　母の待つ里（浅田次郎／著）　おんなの女房（蝉谷めぐ実／著）　階段ランナー（吉野万理子／著）　ブラックボックス（砂川文次／著）　少女を埋める（桜庭一樹／著）　サンセット・サンライズ（楡周平／著）　かくして彼女は宴で語る（宮内悠介／著）　奔流の海（伊岡瞬／著）　五つの季節に探偵は（逸木裕／著）　誰かがこの町で（佐野広実／著）　戒厳（四方田犬彦／著）　探花（今野敏／著）　異常（エルヴェ・ル・テリエ／著）　繁花　上・下（金宇澄／著）

●随筆・詩などの文学　読んで、旅する。（伊集院静／著）　日本橋に生まれて（小林信彦／著）　100歳まで生きてどうするんですか？（末井昭／著）　作家と珈琲（平凡社編集部／編）

●その他の本　大人になるってどういうこと？（神内聡／著）　腰痛は座り方が9割（碓田拓磨／著）　75歳以上の免許更新が変わる!!!（高齢者安全運転支援研究会／監修）　いちばん楽しいマンションの間取り図鑑（リノベる。／著）　日本の総理大臣大全（八幡和郎／著）

『母の待つ里』
浅田次郎
新潮社

『おんなの女房』
蝉谷めぐ実
KADOKAWA

『読んで、旅する。』
伊集院静
小学館

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館の際はマスク着用などの協力をお願いします。

としょかんカレンダー

令和4年4

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	◯4	5	6	7	8	9
10	◯11	12	13	14	15	16
17	◯18	19	20	21	22	23
24	◯25	26	◯27	28	29	30

◯印の日は、お休みです。
開館時間　午前10時から午後6時まで
金曜・土曜（祝日除く・太字の日）は午後7時まで

太宰府の文華
～公文書館だより㊻～

筑紫氏、侍島を手に入れる

戦国時代前半の永正9年（1512）の閏4月、大内義興（筑前国守護）の重臣杉興長（筑前守護代）が、御笠郡筑紫村のうち侍島12町の地を太宰府天満宮の社家の満盛院に返還しています。この侍島（侍島庄・侍島村とも）とは、現在の筑紫野市下見付近に当たると言われています。その背景には、以前に筑紫能登守（尚門か）という人物が、大内氏の味方に参じた恩賞として、満盛院領の侍島を手に入れたものの、後に息子の又次郎が敵である少弐方に戻ってしまったため、同地を大内氏に没収されてしまった、という経緯があります。

筑紫氏は、戦国時代には肥前国の東部（現在の佐賀県鳥栖市周辺）を本拠にして、境を接する筑前国・筑後国にかけて勢力を広げていた有力な領主ですが、もともと御笠郡筑紫村（現在の筑紫野市筑紫）が本領で、ここを名字として名乗っていました。能登守は侍島の地を、名字の地である筑紫村の内だという理由でしきりに大内氏に望み、強引にこれを領有したようです。

ところが、実際のところ侍島は筑紫村の内ではなく、永正9年に満盛院に返還する時、杉興長の家臣たちはそれを知っていたのにうっかり忘れ、間違って「筑紫村内」と書いた文書を渡してしまったので満盛院に謝っています。恐らく大内氏側は、侍島を名字の地の内だとする筑紫氏の主張に当初は疑問を持たず、後になってそれが間違いだと気づいたのだろうと思われます。現状を地図で見ても、筑紫村があった筑紫野市筑紫周辺と、侍島の故地とされる下見の間には宝満川が流れ、両者は隔てられています。

しかし永正16年（1519）3月に、大内義興はあらためて侍島（「下見村」）30町地を筑紫刑部大輔に与えました。また、それ以降も筑紫氏の領地として、「侍島」「志田美」の地名がたびたび史料に出てきます。侍島の地をめぐる満盛院と筑紫氏の争いは、簡単には解決しなかったようです。

【バックナンバーはこちら】
ページID7241

太宰府市公文書館　大塚　俊司